

実践事例

実践効果



ねらい：
修飾・被修飾の関係を理解し、文の中で様子を表す言葉を見つけることができる



利用機器・ソフト
タブレット16台 アクセスポイント1台
電子黒板 eライブラリアドバンス

■ 学習展開

学習の流れ	学習活動	利用機器・ソフト
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を確認する ○ナレータークイズを行う ○様子を表す言葉を全員で考える <ul style="list-style-type: none"> ・教師の動きを見る 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○「どんな」「どのように」を表す言葉の働きを知る <ul style="list-style-type: none"> ・グループで短文作りのカードゲームを行う ・児童一人ひとりが3色のカードに「主語」「述語」「修飾語」を書く ・「修飾語」のカードは裏返し、ランダムに引いて文書にあてはめる ○様々な修飾語を知る <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこで」「何を」「だれに」を表す言葉を用いた短文から修飾語を見つける 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○「主語」「述語」「修飾語」の練習問題をする <ul style="list-style-type: none"> ・eライブラリアドバンスのドリル問題で本時の復習を行う 	タブレット eライブラリアドバンス

■ 授業の様子



グループで短文作りカードゲーム



ドリルで「主語」「述語」の復習



ドリルで「修飾語」の復習

Point

ICT機器活用の効果

- ▶ タブレットを利用したドリル学習により、児童一人一人が自分の進度で課題に向き合い、集中して問題を解くことができる。
- ▶ 学習効果をその場で確認することができ、解答解説を見ながら間違えたところをすぐに復習することができる。



山内 美穂 先生にお話を聞きました



eライブラリアドバンスのドリル学習は、授業の導入で既習事項の確認として活用したり、授業の終末で本時の学習内容の確認・定着のために活用したりしています。子ども達は、このドリル学習が大好きです。その理由は次の3つだと思います。①自分のペースに合わせて取り組めること②結果がすぐに分かること③基本・標準・発展の三段階で次々に挑戦できることです。

タブレットが導入された当初は、算数科で活用することが多かったのですが、今の私のおすすめは国語科の「ことば」と社会科のドリルです。算数科の計算や国語科の漢字などと違い、社会科は練習問題が少ないのがこれまで悩みでしたが、eライブラリアドバンスのドリル学習でたくさんの問題に挑戦させることができ、学習内容の定着に繋がっています。

ICT支援員に授業の様子を聞きました

児童が授業のまとめですぐにドリル学習に取り組めるよう、あらかじめ担任の先生へ学習単元のドリル問題を紹介いたしました。

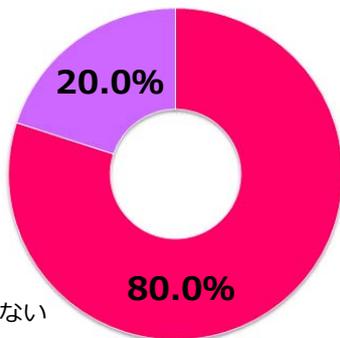
児童はグループでのカードゲームや一斉授業で繰り返し問題を解いていたので、ドリルの正答率が高い様子でした。また、タブレットでドリル学習をすることで、集中して問題に取り組む姿も多く見られました。

授業後に児童の学習意欲がどのように変化したかアンケートを取りました

Q1 eライブラリアドバンスを使った学習は楽しいですか？

100%の児童が「とても楽しい」「楽しい」と答えています。

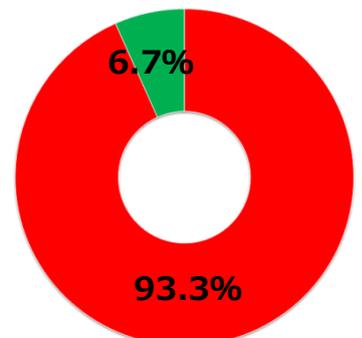
■ とても楽しい ■ 楽しい
■ あまり楽しくない ■ 楽しくない



Q2 eライブラリアドバンスでまたドリル学習をしたいですか？

93.3%の児童が「また学習したい」と答えています。

■ また学習したい ■ もうしたくない
■ あまりしたくない



Q3 eライブラリアドバンスを使って、良かったことはどんなことですか？

平均すると89.3%の児童がeライブラリアドバンスを使って良かったことがあったと答えています。

- 100点を取れた
- わからない問題が解けるようになった
- 知らないことがわかるようになった
- 苦手な学習が好きになった
- 答えを確かめながら学習できたこと

